座禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所
● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
診　察　日：月曜・木曜・金曜
受付時間：9:00～12:00、
〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
IP Tel:058-295-9545
FAX:058-296-3903
E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
http://zazendoh.town-web.net/
145号　2016.4.1.
毎月１回発行　座禅洞診療所　松井英介

「乳歯保存ネットワーク」発足
―ヴラディーミル・チェルトコフを迎えて―

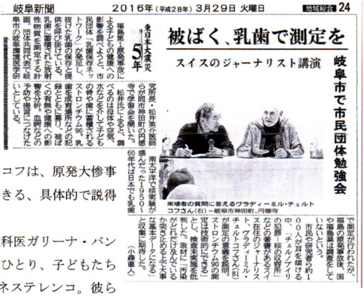
松井英介

3月26日（土）「乳歯保存ネットワーク」(PDTN)発足の集いは120人のほどの参加で、円徳寺は熱気に溢れました。福島から岐阜に避難した数家族も参加。南相馬市から岐阜に移り住んだ小野久美さんは、政府が一般ゴミとして全国の自治体に押しつけている核廃棄物の処理について訴えました。

共同代表のひとり市原千博さんは、PDTNについて説明。彼は、2月末ベルリンで開かれたドイツ核戦争防止国際医師会議（IPPNW 会員約1万人）主催国際会議「5年後のフクシマ 30年後のチェルノブイリ」でも報告。ドイツIPPNWは、PDTNを全面的に支援することを決めています。

会場で上映された「真実はどこに」と「サクリファイス」。これらドキュメンタリー映画の監督ヴラディーミル・チェルトコフは、原発大惨事の現場を知り尽くした人だけが語ることのできる、具体的で説得力に富んだ話で聴衆を惹きつけました。

病理医ユーリ・バンダシェフスキーと小児科医ガリーナ・バンダシェフスカ。この二人は夫婦ですが、もうひとり、子どもたちのために献身した物理学者ヴァッシーリ・ネステレンコ。彼らは、どのように協力したのか。原発大惨事でいのちを蝕まれた子どもたちの健康被害の実態を、どのように調べ、論文にまとめ上げたのか。また、彼らは当時のソヴィエト国家権力によって、なぜ、どのように迫害されたのか。無実の罪で投獄されたユーリ。彼を救出するために展開された国際的な連帯行動。そして今。フランスに移り住むことを余儀なくされたユーリ。娘二人とともに、針のムシロと化した祖国ベラルーシに留まらざるを得ない妻ガリーナの不屈の闘い。



岐阜新聞　2016年（平成28年）3月29日　火曜日　地域総合　24

東日本大震災 5年

被ばく、乳歯で測定を

スイスのジャーナリスト講演

岐阜市で市民団体勉強会

福島第1原発事故による子どもの健康への影響を調べようと、市民団体「乳歯保存ネットワーク」が発足し、抜けた乳歯の保存と提供を呼び掛けている。乳歯に蓄積された放射性物質を測定する計画。団体共同代表で岐阜市の岐阜環境医学研究所長・松井英介医師らが同市神田町の円徳寺で学習会を開いた。

松井氏によると、調べるのは母体や空気、水などを介して子どもの骨や歯に蓄積されるストロンチウム90。乳歯を成育場所などの記録とともに募り、被ばくの有無や健康への影響を分析。血病などの予防や提言につなげたいとしている。

南太平洋で核実験が盛んだった1950～60年代は日本でも乳歯で測定が行われたが、福島の原発事故後、国や福島県は調査をしていないという。

市民や研究者ら約100人が耳を傾ける中、「チェルノブイリの犯罪－核の収容所」などの著書があるスイス在住のジャーナリスト、ヴラディーミル・チェルトコフさん(81)が測定の意義を説明。ストロンチウム90の測定は技術的にできる」とし、検査未実施を批判した。取材に「汚染がどれだけ及んでいるか突き止める上で大事な基本データになる」と収集に期待した。

（小森直人）

来場者の質問に答えるヴラディーミル・チェルトコフさん（右）＝岐阜市神田町、円徳寺

チェルノブイリと福島の原発大惨事は、人びと、とくに子どもたちに筆舌に尽くしがたい苦しみをもたらしています。国連安保理・IAEA・UNSCEAR・WHO・ICRP、草の根で暗躍するETHOSグループ、そして日本政府を含む国際核軍産複合体は、人工放射性物質による深刻な健康被害を否定しています。

“「乳歯保存ネットワーク」はユーリ・バンダシェフスキーの志を受け継ぐもの”。チェルトコフのこの一言が忘れられません。3月23日広島、24日西宮、25日京都、26日岐阜、27日～28日東京。強行スケジュールをこなし、29日朝、ヴラディーミル・チェルトコフ81歳は帰途につきました。